

提携米通信

2019年10月号・黒瀬農舎



ピッカピカの新米をお届け致します。

稲刈りスタート 春先の好天で、田圃の土壌がよく乾き、土中の有機物の分解が促進されたことで地力チツッが稲に供給され、稲が一部倒れるほど成長し「大豊作」かと思ったが、酷暑によって平年作に止まりそうです。 2019.9.22撮影

振り返ってみると・・・今年は北国・秋田に、ほとんど雪がない極端な暖冬・異常気象でした。

稲作期間中の天候を大変心配しながら、種蒔き、田植えと作業を進めましたが、雨はほとんどなく「好天続き」。

田植え時期前後には、秋田県内の一部では、田圃の水不足がニュースになっていましたが、当地は海拔ゼロメートル以下の湖底が田圃。周囲に残る八郎湖には

満々と水があり、水不足の心配はまったくない恵まれた地域です。

種蒔き以降長期に続く「好天」で稲はすこぶる順調に生育しましたが、この好天は、異常気象のなせるワザ。稲作後半期の夏場の低温・冷害、台風などの心配がつのります。

ところが、どうしたのか、その後も記録的な酷暑の夏、それが9月中頃まで続き、一番心配な台風の来襲もないまま無事に収穫の秋を迎えさせて頂きました。

さて、稲刈りは高温・好天続きによって、例年よりも1週間余り早くから始まりました。

私の百姓人生の中で始めて経験する稲作期間ずっと素晴らしい好天続きでしたから「大豊作」のはずなのですが、一番大事な穂が出る頃から、稔りの時期の8月、9月が余りにも暑過ぎたことが原因のようで、ほぼ平年作と思われます。また、粘りも強く味も良いのですが、夜温が下がらなかったことで、白濁米や未熟米の混入が少し多目のようです。

ところで、私たち百姓にとっては、感謝の気持ちが湧くのは、大晦日や元旦の朝よりも、この収穫の時期です。豊作の年も、不作の年も、自然の恵みに感謝。また、来年の恵みに祈念です。

そして、農薬や化学肥料を使わないことで、手間ひまかかり、コストのかかる、しかし実に楽しいお米作りが続けられているのは、エシカルなライフスタイルをお持ちの皆様のご支援のお陰です。

収穫の秋に際し、お礼と感謝をあらためてお伝えしながら、新米をお届け致しますのでどうぞご賞味下さい。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・友基

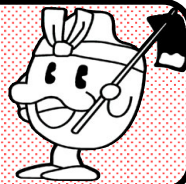
TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887

E-mail: akita@kurose.com

Web:

提携米 黒瀬農舎

検索



★定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。
変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までにご連絡下さい。

★お米のご贈答利用も宜しくお願致します。

★電話は土日祝日も含めて朝8時～夜8時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため作業中や外出などで留守番電話での対応とすることがあります。ご了承をお願いします。

また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性もあるので迷惑メールの確認やメールの設定をご確認下さい。

現地確認会から、翌年の有機栽培工夫のヒントを得る。

毎年稲が穂を出し、日に日に黄金色に向う時期に有機栽培稲作の確認会を行っています。

今年は、8月末に関東や関西の提携米本部や関係者を迎え、生産者の田圃の確認に廻りました。

計画通りに農業や化学肥料を排除したお米作りが出来ているかどうかの検査確認と共に、それぞれが試行した栽培技術のノウハウを共有できるように、各生産者も同行します。

当然のことですが、お米作りは1年に1回しかできません。毎年工夫を凝らした米作りを30年間行っても30回・30通りしかできないのです。

それぞれ工夫を凝らす生産者が20人集まると、1年で20通り・20年分の有機栽培の成果を共有できるという効率です。もっともこの中身は、失敗作の反面教師的な事例や、成功例であっても、田圃毎に違う土質や、作期、その年の天候により左右されることも多く、アレンジが必要ですが、参加生産者の翌年の栽培革新に大きく役立っています。

例えば、新しい有機肥料を使う場合、その有機肥料が稲の初期成育期の肥効にどう現われるか。

これは科学的には、有機物などに含まれている炭素(C)量とチッソ(N)量のC/N比率を調べれば、微生物による有機物分解の早遅は判ります。しかし、この地域の天候や土壌、土壌中の微生物の多寡などで、生育にどのように作用するかは、使ってみるまで判りません。

参加者の誰かが、それを試行しておれば、科学的な無機化分解速度の傾向に加えて、その有機肥料の、より具体的な特徴が推察できるのです。



有機栽培現地確認会

高温好天でしたが、湿度の少ない日が多く、稲の害虫は少ない年でした。でもイナゴが大量発生しました。イナゴは稲の葉っぱを食害しますが、幸い収量を左右する程の害はありません。



孫の成長

上の長男、長女は小学生ですが高学年になり田圃に来て、コンバインやトラクターには乗らなくなりました。下の次女は小2、これは可愛い。まだコンバインに飛び乗ります。

27回目のブナ植え (11月3日・文化の日)

27回目のブナ植えをご案内します。次ぎの日程で行いますので、是非ご参加をお願い致します。

- 11月2日** 午後5時から
黒瀬農舎ロッジにて前夜祭
熊ナベを予定しております。
宿泊費：シーツクリーニング代 500円のみ
- 11月3日** 午前8時ロッジ出発
ブナ植栽と昼食交流会
午後3時JR八郎潟駅で解散



昨年の第26回ブナ植え
2018.11.3撮影

***前後日のロッジ宿泊OK *3日当日参加の方は9時までにJR八郎潟駅へ *参加予定者は早めに電話予約お願いします。*黒瀬農舎の田圃や精米所見学希望の方は2日正午までにおいで下さい。**

告

年末のお餅やリンゴ、手作り味噌などの予約注文は、**10月中頃にメール便でご案内します。**

☆10月20日を過ぎても案内が届かない場合は、配達ミスの恐れがあります。

予約〆切：10月28日必着

お手数ですがお電話などご一報をお願いします。